新潟市体育協会会報 第36号 平成25年2月1日

躍動

日本一にそして夢は国際舞台

地元の声援を受け ジュニア選手大活躍

全中（全国中学校体育大会）で、地元開催のインターハイで、ぎふ清流国体で新潟期待のジュニア選手が大活躍しました。

写真㊤は全中競泳バタフライ2冠の中野未夢選手㊦は国体陸上少年女子800mで優勝ガッツポーズでゴールした広田有紀選手。2人とも今年の市スポーツグランプリ表彰に輝きました。

（写真提供＝新潟日報社）

CONTENTS

2面
●新潟シティマラソン 30回記念大会に10,790人参加

3・4・5面
●市体協が初の指導者研修会を開く 五輪出場の4氏を迎え パネルディスカッション

6・7面
●49年ぶりインターハイ開催 市内で6競技に熱戦

8・9面
●第14回ジニア優秀競技者表彰
●期待のジュニア選手

10・11面
●ジュニア強化の指導者 <相撲><水泳>

12面
●体育の日に「体力づくりのつどい」 1300人が参加

13・14面
<トピックス><事務局から>

15面
●新潟市スポーツ功労者
●県体協スポーツ功労者

16面
●第3回スポーツグランプリ 2人を表彰

編集・発行　（公財）新潟市体育協会
新潟市中央区一番堀通町3の1 電話 025−266−8250　FAX 025−266−8332
HPアドレス http://www.niigatashi-taikyo.com Eメール info@niigatashi-taikyo.com
印刷所　共立印刷（株）　電話 025−285−2711（代）

「新潟シティマラソン」第30回記念大会

ハーフマラソン復活 過去最多の10,790人が参加

新潟シティマラソンが10月7日に行われ、あいにくの雨の中でしたが、全国から過去最多の10,790人が参加し、柾谷小路や萬代橋などの市街地と日本海夕日ラインなどを駆け抜けました。

昭和58年に上越新幹線開通記念として始められた旧「新潟マラソン大会」から30回目の記念大会で、ゲストランナーに2000年のシドニー五輪で金メダルを獲得、国民栄誉賞を受賞した“Qちゃん”でおなじみの高橋尚子選手を迎え、多くの市民ランナーと笑顔でハイタッチするなどして、記念すべき大会に華を添えていただきました。

ゲストの“Qちゃん”笑顔でハイタッチ

今回の大会は「ハーフマラソン」が3年ぶりに復活して、フルマラソン、10kmコースの3コースで柳都にいがたを走り抜け、多くの市民の声援を浴びながら、市内や38都道府県から参加した10,347人が完走しました。またスタート地点が陸上競技場内から幅員の広い市役所本館脇の路上に変更され、ゴール地点は全種目とも陸上競技場内でフィニッシュできるようになって、ランナーからの要望に応えることができました。

“Qちゃん効果”は抜群で、募集開始から1週間でフルマラソンが定員になりました。

高橋選手は積極的に多くのランナーとハイタッチして笑顔で声援を送り、多くのランナーから、感動と記憶に残る大会となったなどと感想が寄せられています。

大会支えたボランティア2,654人

また参加したボランティアは延べ2,654人におよびました。前々日から始まった選手受付から大会当日にはメイン会場の運営、コース各所での交通整理や給水や救護活動など、大会の成功に大きな支えとなっていただきました。

「ジュニア強化からトップアスリートへの道」
市体協が≪公益財団法人移行記念≫指導者研修会開く

「ジュニア強化からトップアスリートへの道」―新潟市体育協会が初めて試みた指導者研修会が12月2日、新潟白山会館で開かれました。体協では各競技団体と連携して昭和60年からジュニア指導強化事業を始め、現在では23競技で強化事業の拡大と全国レベルの選手育成に取り組み成果を上げてきました。研修会ではオリンピックなどで活躍した4氏をお迎えしてパネルディスカッション、その豊富な経験と知恵を生かした選手・指導者の立場から、ジュニア指導のポイントなどを率直に話していただきました。約100人の競技団体指導者などから参加していただき会場からたくさんの質問もあって実りある研修会となりました。

五輪出場の4氏を迎えパネルディスカッション

パネリスト
<体　操>五十嵐　久人さん
'71年 第1回アジアJr体操競技選手権大会個人優勝
'72年 全日本インカレ個人総合優勝
'76年 ソビエト・リガ国際体操競技選手権大会個人総合優勝
'76年 モントリオールオリンピック 団体総合優勝
'76年 文部大臣体育功労賞
'76年 読売スポーツ大賞特別賞

栃木県出身、作新学院高校卒業、日本大学卒業
オクラホマ大学大学院修了、国際大学スポーツ連盟理事（現在）
新潟大学教育学部保健体育スポーツ科学講座教

パネリスト
<陸　上（400mH）>久保倉　里美さん
'07年 アジア選手権優勝
'08年 北京オリンピック 日本代表（準決勝進出日本初）
'10年 アジア大会3位入賞
'11年 大阪選手権大会 55秒34（日本記録樹立）
'12年 ロンドンオリンピック 日本代表 準決勝進出
'12年 日本選手権大会 6連覇

北海道旭川市出身、旭川北高校卒業
福島大学卒業
新潟アルビレックスランニングクラブ

パネリスト
<陸　上（走高跳）>佐藤　恵さん
'81年 日本選手権大会 1m87（中学記録樹立）
'83年 オリンピック標準記録挑戦会 1m90（高校記録樹立）
'84年 ロサンゼルススオリンピック 日本代表
'87年 九州学生陸上競技選手権大会 1m95（日本記録樹立）
'88年 ソウルオリンピック 日本代表
'90年 アジア大会優勝（大会新記録樹立）
'92年 バルセロナオリンピック 日本代表（7位入賞）

新潟市出身、沼垂高校卒業、福岡大学卒業
新潟翠江高校教諭

パネリスト
<ボクシング>仁多見　史隆さん
'92年 ライトウェルター級 高校総体国体 優勝
'96年 同級 全日本選手権3連覇
'96年 アトランタオリンピックライトウェルター級 日本代表
'96年 アジア選手権 ライトウェルター級 金メダル
'97年 ライトウェルター級 国体4連覇
'05年～ 日本オリンピック委員会強化スタッフ就任
'12年 国体少年男子監督 3位入賞

新潟市出身、興農館高校卒業、東京農業大学卒業
新潟市開発公社、新潟県アマチュアボクシング連盟副理事長

<コーディネーター>目黒　　淳さん
（株）新潟日報社編集局運動部長・編集委員、新潟市スポーツ推進審議会委員

＜スポーツとの出合い＞

目黒：近年はジュニアからの強化・育成の重要性が見直されています。さっそくですが、どんなきっかけでスポーツを始めたかご紹介いただきたい。

五十嵐：子どもの頃は今のような施設などなく、遊びから入りました。小学5年の体力測定で、懸垂だけは人より多くできて、先生から紹介され市の体操教室に入ったのがきっかけです。

久保倉：競技を始めたのは高校2年で、始めるのが遅かったため、何とかたくさん吸収しようとして一生懸命になれたのでスタートが良かったと思っています。

佐藤：小学5年の体育の授業で50mを走ったタイムが良かったので、先生に呼ばれ市の大会で80mHに出場させてもらったのがスポーツとの出合いでした。

仁多見：小学、中学と野球をしており甲子園を目指していたが高校受験に失敗して、本意ではなかったが家が農業ということで、親の勧めで入った農業高校にその年からボクシング部ができたということがきっかけでした。

五十嵐：幼稚園前から遊具を使っていろいろな遊びをしていたのも器械体操につながる運動をしていたのではないかと思います。昔はのびのびとした空間があったことが良かったと思います。

久保倉：陸上はいろいろなスポーツの基本になると思います。小さい頃から外遊びが大好きで、友達とかけっこなどしていて、あらゆる身体能力が身についてきたと思うので、そういった遊びが大事だったのかなと思います。

佐藤：高跳びは中学の1年の時の部活見学で、背面跳びを見てかっこよく感じそこで決めました。当時は体が大きいだけでいじめられていて、外に出て遊ぶこともなかった。

仁多見：やんちゃでボクシングを始めるのに戸惑いはなかった。当時は辰吉丈一郎、マイクタイソンが活躍していた頃で、メディアを通して大変興味をそそられました。

＜競技人生の転機となったこと＞

目黒：さまざまな壁にぶつかったときに、指導者から言われた転機など、エピソードを教えてください。

五十嵐：多くのターニングポイントがあったが、小学生の時に徹底的に基本を教えられ空中感覚が育ちました。ゴールデンエイジが大切だったと思います。

小さいころから外遊び／ゴールデンエイジが大事

勝たねばとステップアップ／オリンピック選考会の方が緊張

久保倉：やるなら日本で一番になれる環境でと思って福島大学を選びました。オリンピックを目指す人の中に飛び込んでしまい、楽しむというよりは自分自身に挑戦したいという気持ちに切り替わりました。

佐藤：中学2年で日本選手権で優勝し、楽しく競技をしているつもりでしたが、優勝ということから逃げられない、やめられない、勝たなければならないという状況に。一時は拒食症なったのも競技をやりたい、跳び続けたいという気持ちだったのだろうなと今は考えています。

仁多見：高校進学のその年に赴任された先生との出会いが一番かな。部活がきつくて退部を申し出たら3度とも体当たりで先生が止めてくれた。高校で優勝し大学とプロから誘いがあった折、プロの世界チャンピオンになるよりも、オリンピックでメダルを取る方が難しいと聞かされのも転機だった。

＜オリンピックを目指して＞

目黒：オリンピックを目指すことになって、どのように変わっていったのでしょう。

五十嵐：中、高校で国体にも出ることができずに周りから挫折していると思われ、すごく悔しかった。その後大学でオリンピックを狙った計画を立て始めました。

久保倉：400mHで日本女子が出場したことはなく、誰もやっていないことをやる、やるからにはオリンピックを目指そうと、まずはアジア選手権や世界選手権を目標にして一歩一歩ステップアップできるよう計画を立てました。

佐藤：中学2年に日本選手権で優勝してしまい、また高校2年の時にオリンピック標準記録が出て、意識し始めました。ただオリンピックといっても私にとってはどの大会も同じ大会ですので、練習内容も今まで通りのことをやってきました。

仁多見：高校時代の監督が、自分の目標を道場に張れと。大きなことを書いた方が良いと思い全国制覇と書いてそれがかなった。次はオリンピック出場を目指そうと書いて「夢を見える化する」ことを実践しました。

＜オリンピックに出た実感は＞

目黒：オリンピックに出てみて、思いや実感はどうですか

五十嵐：控えの選手でしたが、選手の一人が病気になって、試合の2日前に出場が決まり目の前が真っ暗になった。国内の選考会は小さなミスで順位が変動するのでオリンピックよりも緊張しました。

久保倉：北京とロンドン両方参加したが、いつもの国際試合のように特別緊張することはなく臨めたのですが、日本代表を決める日本選手権はとても緊張しました。オリンピック本番は4年間積み上げてきたものを披露する場だと思い、世界のトップアスリートに挑戦する気持ちで精いっぱいやれました。

佐藤：1回目の大会は高校3年生の時で、舞い上がってしまって予選落ち。その時、なんで私は決勝を観客席で見ていなければいけないのかと思いました。2回目は国内選考の方が緊張しました。あまりにも調子が良すぎて決勝までいったが入賞までいかなかった。3回目は腰も膝も首も体がボロボロの状態でなんとか代表選手に選ばれたが、7位に入賞した。出場を重ねるたびに自身が成長していくのが分かったような気がします。

仁多見：アジアで6人の枠があり、最後の3次予選で枠を勝ち取ったので、とてもヒヤヒヤしました。ボクシングは減量がありますので、各国の食文化には触れることができず残念でした。

＜トップアスリートの食生活など＞

目黒：競技だけでなく例えば私生活や食事の中でジュニア期からアスリート時代に何を一番大切にしていましたか。

五十嵐：オリンピックを目指し始めたころから練習以外の重要性を感じ出しました。頭の中で自分の動きをイメージし、調子が良い時ばかりではないので、どう気持ちを保つか意識しました。

久保倉：どんなに素質、技術があってもけがをしてしまい、目標をかなえられなかった選手もたくさん見てきましたし、心も強くないと一番大きな目標に届かないのかなと思っているので、私は両親に丈夫に生んでもらって感謝しています。

佐藤：体が動かすのが苦手で不器用だったので、素質があったかどうかは分かりませんが、人よりも練習量をこなしてきました。

仁多見：高校時代は全寮制で学校の敷地からは平日出ると停学になるといった厳しい環境でした。起床、消灯の時間も決まっており、食事も栄養管理されたものを食べ、一定のリズムで生活を送った。指導者が栄養、睡眠、休養についてどこまで入り込めるかがポイントなのかなと思っております。

能力を引き出す／根性論でなく／指導者にも研修の場を

<ジュニア育成について>

目黒：ジュニアを育成していくにはどのようなことが大事なのか。指導者と出会って学んだことはなんですか。

五十嵐：幸いに小学校から高校、大学まで、強制するようなことを言わず時々アドバイスをしてくれるコーチと巡り会えました。自分も個々人を見て言葉を選びながらアドバイスしていきたいと思います。技術的なものよりは内面的な部分にヒントを出しながら指導していきたいです。

久保倉：選手が持っている能力を引き出す能力が必要ではないかと思っています。今、小学校などでは勝つことは二の次といった風潮があります。楽しむことは大事だけれど、勝つ喜びを小さい時に感じて欲しいと思っています。我慢や悔しさを経験することも必要で、一生懸命に努力をするということを引き出せたら良いなと思います。

佐藤：小学校、中学校、高校、大学とその時々にやるべき運動の役割分担ができており、次のステップにつながるように指導していけたらと思います。自分の指導者はそれぞれ教え方、伝え方、考え方は違いましたが、競技者である前に人間性を大事にするという姿勢は共通していたと思います。

仁多見：県外では根性論が根強く残っている状態が見受けられます。良くある話でセコンドに入ったコーチが「いけいけ」というが、それについて有名な外国のコーチが「日本人はいけいけ言うが行き方も教えずにどこにいくんだ」と言ったとか。インターバル間も休む間もなく怒り続けるという指導者がいたが、こういった指導者にはなりたくないと思います。

<ジュニアの一貫指導について>

目黒：ジュニア強化でアスリートを育てていくにはそれぞれのステージで連携をとっていくのが大事なことだと思いますが、冒頭に五十嵐先生からゴールデンエイジという言葉も出ました。一つの競技を専門的にやるべきか、いろいろな競技を経験すべきか、みなさんの個人的な意見を聞かせてください。

五十嵐：難しい問題で競技特性によると思います。共通して言えることは、さまざまなスポーツを覚えさせた方がいいと思います。ジュニアクラブでそのスポーツだけをしていては応用性がなくなってしまうと思います。

久保倉：いろいろなスポーツを経験してオールマイティーに関わっていくことが大切だと思います。今の子どもは運動に接する機会がないと思うので、そのための機会を提供することが大事なのではないかと思います。

佐藤：私の場合は小学校では勝つ喜びを教えられ、中学校では先生の方針で、バスケットボールや水泳など色々な活動をさせられ、部活動一つに限定せずに活動していました。

仁多見：高校に入るまでは野球をやっていたのですがバッティングは、思い切り振るのと、バントをするといった神経伝達系の運動をする。いろいろなスポーツをやるのは身体の発達上の視点からも大いに賛成です。

目黒：競技団体の連携なども含め今後ジュニアを一貫して指導していくにあたって、これが一番大事だと思うことは。

五十嵐：小学校から高校まで一緒になって練習できるジュニアクラブがたくさんあります。そういったところで育った選手が今全国で活躍しています。体操教室などの拠点にきちんとした器具があると選手強化になると思います。県、市など行政の支援も必要です。

久保倉：指導者がさまざまな知識を得られるような研修の場も必要だと思います。新潟は積雪があり、屋内で活動できる施設整備など行政に協力してもらう必要があると考えています。

佐藤：年代の役割があると思うので、年代ごとにやるべきことを指導者がやらせることが必要だと思います。

仁多見：大きな夢みたいな話になりますが、今回のオリンピックでは味の素のナショナルトレーニングセンターというものがすごく力を発揮し、選手に良い刺激を与えたと思います。そのような施設が新潟にもできたらと思います。また、強化も大事ですがマイナースポーツの場合、普及も大切になります。

事務局：世界で活躍された方々の言葉にはとても重みを感じました。今後の指導に役立てていただきたいと思います。

49年ぶり新潟でインターハイ

<7/28～8/20>［2012北信越かがやき総体］

市内で6競技 高レベルの熱戦展開

新潟市をメーン会場としたインターハイ（全国高校総合体育大会）「北信越かがやき総体」が7月28日～8月20日の24日間、北信越5県の27市町村で行われました。本県での開催は49年ぶりで29競技中13競技が県内各地の会場で行われ、そのうち新潟市内では6競技で、全国から参加した若人が熱戦を展開、地元選手も熱い声援に応えて健闘し予想以上の成績を収めました。

「君は今　希望とともに　緑の大地をかけぬける」の大会スローガンのもと、総合開会式が7月28日、新潟市の朱鷺メッセ・コンベンションセンターで繰り広げられました。全国からの選手団のほか招待者や大会役員、多くの市民の一般観覧者、歓迎演技の関係者などを合わせ約4,300人が参加して健闘を誓い、アトラクションを楽しみました。

入場行進では最後に本県選手団が登場すると、一段と大きな拍手が会場に湧き起りました。新潟らしさをアピールして行進曲はアニメ曲「がんばれドカベン」、歓迎演技ではチューリプや花火をモチーフにした創作ダンスを新潟市内7校のダンス部員約180人が披露しました。

皇太子殿下は7月27日から29日まで本県にご滞在になり、総合開会式の式典にお言葉を贈られるとともに、式典の後には県内高校生によるマーチングバンドや創作ダンスをご覧いただきました。

選手・監督9,600人観客延べ22万8千人

＜参加者数・参加校数・観客数＞

（人）

区分		選手			監督コーチ	合計	参加校			顧客数（延べ数）
No.	競技種目名	男子	女子	計			男子	女子	計	
1	陸上競技	1,760	1,463	3,223	901	4,124	652	465	1,117	**90,000**
2	ソフトテニス	802	768	1,570	492	2,062	169	160	329	**62,000**
3	剣道	389	386	775	210	985	93	90	183	**32,000**
4	レスリング	670		670	145	815	145		145	**4,700**
5	ボクシング	309		309	91	400	171		171	**5,300**
6	空手道	447	421	868	375	1,243	125	122	247	**34,527**
計		4,377	3,038	7,415	2,214	9,629	1,355	837	2,192	**228,527**

「君は今 希望とともに 緑の大地をかけぬける」

陸上競技　ビッグスワンスタジアム（7.29～8.2）

連日、高レベルの熱戦が展開されました。男子800mと女子400mハードルで大会新記録が出て、女子3000メートルで国内記録が誕生しました。女子800mでは広田有紀さん（新潟高2年）が見事3位入賞を果たしました。

ソフトテニス　新潟市庭球場（8.7～8.14）

男女合わせて732チームが参加、伸べ62,000人の観客がスタンド観覧席を埋めて、コート上の激しいラリーの応酬に熱い拍手を送って声援しました。

剣　道　東総合スポーツセンター（8.6～8.9）

広い館内に鋭い気合いの声が響いて、地元の声援を受けて新潟商業高が団体女子で3位と大健闘、同校3年の武田真弥さんが女子個人3位に輝きました。

レスリング　鳥屋野総合体育館（8.2～8.5）

リングを国体やオリンピックと同様に高くかさ上げして、憧れの大会であるインターハイの雰囲気にふさわしい舞台となりました。

ボクシング　新潟市体育館（7.29～8.4）

インターハイでは初めて準決勝から入場行進曲を流すなどして、演出に工夫を凝らし、会場の雰囲気を大いに盛り上げました。フライ級では小林将也さん（新潟北高3年）が準優勝、ライトウェルター級でも生神拓也さん（高志高3年）が準優勝を果たしました。

空手道　東総合スポーツセンター（7.29～8.1）

気迫のこもった対戦が続き会場が湧き上がりました。

延べ５万人で手づくり大会

「北信越UNION～絆～」のスローガンに結集して、県内の103校、延べ約52,000人の高校生が大会の受付や広報活動、総合開会式での歓迎演技、競技種目別の大会会場の運営補助などに積極的に参加して、高校生自身による手づくりの大会を実現しました。

市体協から記念品

新潟市体育協会では、今大会の協賛品としてキーホルダーを用意しました。市内で開催された競技に参加した選手や監督に記念品として贈り喜ばれました。

第14回 ジュニア優秀競技者表彰

第14回（平成24年）新潟市体育協会のジュニア優秀競技者表彰は、各体育連盟、種目別団体ならびに区体育協会から推薦された候補者を理事会で協議の結果、次の13種目81人に対して、81名に決まりました。表彰式は2月6日にホテルオークラ新潟で行われます。

※（対象期間）H24年1月～12月（対象者）高校生以下の競技者、新潟市在住もしくは在学者

レスリング

＜巻っずレスリングクラブ＞

▼齋藤　陽（巻南小6年）
平成24年度第29回全国少年少女レスリング選手権大会
女子の部6年生+45kg級　第2位

▼栃倉　健人（漆山小5年）
平成24年度第29回全国少年少女レスリング選手権大会
男子の部5年生45kg級　第3位

ホッケー

＜新潟CRESTホッケースポーツ少年団＞

▼駒形　羽良々（新通小6年）　阿部　千秋（新通小6年）
松田　朋実（新通小6年）　小林　一菜（漆山小6年）
金子　彩香（漆山小5年）　斎藤　彩果（越前小6年）
渡邉　明日香（巻北小6年）
第34回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会　女子の部　第3位

バドミントン

＜小野Jr.バドミントンクラブ＞

▼韮澤　美羽（荻川小6年）　石田　有彩（濁川小6年）
第21回全国小学生バドミントン選手権大会　ダブルス6年生以下　優勝
第28回若葉カップ全国小学生バドミントン大会　女子の部　第2位

▼五十嵐　温（白根小6年）　石井　亜海（白根小5年）
長谷川　未来（新通小4年）　目崎　舞桜（桜ヶ丘小3年）
韮澤　百羽（荻川小2年）
第28回若葉カップ全国小学生バドミントン大会　女子の部　第2位

▼目崎　駿太郎（桜ヶ丘小4年）
第21回全国小学生バドミントン選手権大会　シングルス4年生以下　第2位

＜はちみつジュニアバドミントンクラブ＞

▼三輪　泰輝（小針小6年）　細井　勇希（小針小6年）
保苅　雄斗（新潟小6年）　武田　要太（東山ノ下小5年）
宮川　翔太（桃山小5年）　武田　航太（桃山小4年）
後藤　空（竹尾小4年）　土田　琉聖（牡丹山小4年）
山田　佳輝（東山ノ下小4年）
第28回若葉カップ全国小学生バドミントン大会　男子の部　第3位

ウェイトリフティング

▼片岡　りょう（東新潟中2年）
平成24年度全国中学生ウェイトリフティング競技選手権大会　女子63kg級　第2位

フェンシング

▼古俣　聖（内野中3年）
第25回全国少年フェンシング大会・個人戦の部　クラスA中学生男子エペ　第2位

▼古俣　潮里（新潟高2年）
第19回JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会　カデ女子エペ　優勝

▼曽根　一葉（新潟商業高2年）
第19回JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会　カデ女子エペ　第3位

陸上競技

▼相川　心平（内野中3年）
平成24年度全国中学校体育大会第39回全日本中学校陸上競技選手権大会　男子走幅跳　優勝

▼縄　亜佑実（小針中3年）　中澤　舞（小針中3年）
矢尾　優奈（小針中2年）　宮路　芽衣（小針中2年）
小野塚　諒（小針中3年）　小山　優香（小針中3年）
平成24年度全国中学校体育大会第39回全日本中学校陸上競技選手権大会　女子4×100mR　第2位

▼広田　有紀（新潟高2年）
平成24年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会　女子800m　第3位
第67回国民体育大会陸上競技会　少年女子共通800m　優勝
第6回日本ユース陸上競技選手権大会　女子ユース800m　優勝

水　泳

＜アクシーひがし＞

▼中野　未夢（東石山中3年）
平成24年度全国中学校体育大会第52回全日本中学校水泳競技大会
女子200mバタフライ　優勝
女子100mバタフライ　優勝
第67回国民体育大会水泳競技会　少年女子B100mバタフライ　第3位
第34回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会
女子（13～14歳）200mバタフライ　第2位
第35回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会
女子（13～14歳）100mバタフライ　優勝
女子（13～14歳）200mバタフライ　優勝

＜新津第一中＞

▼吉野　万作（新津第一中3年）　渡辺　武史（新津第一中2年）
中川　潤（新津第一中2年）　星山　琳（新津第一中2年）
平成24年度全国中学校体育大会第52回全日本中学校水泳競技大会　男子4×100mR　第2位

サッカー

＜アルビレックス新潟ジュニアユース＞

▼阿部　航斗（亀田中3年）　齊藤　駿哉（下山中3年）
田辺　大智（小針中3年）　伊藤　康平（寄居中3年）
有田　光我（南浜中3年）　五嶋　悠哉（光晴中3年）
加藤　潤（大形中3年）　高橋　怜大（鳥屋野中3年）
本間　司（小針中3年）　平岩　諒大（松浜中3年）
長谷川　巧（小針中2年）　内山　蓮（五十嵐中3年）
堀　航輝（新津第一中2年）　渋木　理（小針中3年）
杉本　陸（新津第一中2年）
2012　JFA　PREMIER CUP　supported by NIKE　第3位
adidas CUP 2012 第27回日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会　第3位
高円宮杯第24回全日本ユース（U-15）サッカー選手権大会　第3位

▼石黒　日向（上山中2年）　内藤　勇輔（高志中2年）
榎並　洸（上山中2年）　丸山　壮大（小針中1年）
渡邊　泰基（山潟中1年）　星野　恭佑（小針中2年）
adidas CUP 2012 第27回日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会　第3位
高円宮杯第24回全日本ユース（U-15）サッカー選手権大会　第3位

＜アルビレックス新潟ユース＞

▼酒井　高聖（開志学園高2年）
AFC U-16 Championship 2012　第2位

▼川口　尚紀（開志学園高3年）
AFC U-19 Championship 2012　ベスト8

少林寺拳法

▼伊勢　歩実（新潟高3年）
第39回全国高等学校少林寺拳法大会　女子単独演武　優勝

テコンドー

▼山田　亮（新潟商業高3年）
JOCジュニア・オリンピック・カップ第5回全日本ジュニアテコンドー選手権大会
高校生男子ミドル超級　第2位

ボクシング

▼小林　将也（新潟北高3年）
平成24年度全国高等学校総合体育大会ボクシング競技大会　フライ級　第2位
第67回国民体育大会ボクシング競技会　少年男子フライ級　第2位

▼生神　拓也（高志高3年）
平成24年度全国高等学校総合体育大会ボクシング競技大会　ライトウェルター級　第2位

▼齋藤　優雅（巻総合高3年）
第67回国民体育大会ボクシング競技会　少年男子ライトフライ級　第2位

▼大森　翼（巻総合高2年）
第67回国民体育大会ボクシング競技会　少年男子ミドル級　第3位

剣　道

▼武田　真弥（新潟商業高3年）
平成24年度全国高校総合体育大会剣道競技大会　個人戦　第3位
平成24年度全国高校総合体育大会剣道競技大会　団体戦　第3位
第67回国民体育大会剣道競技会　少年女子　団体戦　第3位

▼熊谷　真純（新潟商業高2年）　大塩　綾子（新潟商業高2年）
相田　真奈美（新潟商業高2年）　丸山　ゆき乃（新潟商業高3年）
平成24年度全国高校総合体育大会剣道競技大会　団体戦　第3位
第67回国民体育大会剣道競技会　少年女子　団体戦　第3位

▼遠藤　歩美（新潟商業高3年）　佐藤　愛（新潟商業高3年）
平成24年度全国高校総合体育大会剣道競技大会　団体戦　第3位

ソフトテニス

▼山本　千紘（北越高3年）　小林　すみれ（北越高3年）
第41回ゴーセン杯争奪戦ハイスクールジャパンカップソフトテニス2012　第3位（ペア）

陸上男子走り幅跳び

相川　心平さん（内野中3年）

7m超え大ジャンプで全中V

13年ぶりで県中学記録を更新

日本一になる、と心に秘めて臨んだ大会でした。昨年8月の千葉全中での決勝。目標だった7m超えの大ジャンプを連発しての見事な優勝でした。

本番には強く、跳躍の前に「行きます！」と大きな声を出して自らテンションを上げています。決勝では1回目から7mを超え、4回目の踏み切りも完璧に決まって大会記録7m03を超える7m11を跳びました。たまたま追い風が2.1mとなって規定風速をわずか0.1mオーバーしていたために参考記録になってしまい、公認記録は予選で跳んだ6m91という結果に。悔しい思いをしましたが、県中学記録6m89を13年ぶりに2cm超える立派な結果でした。

もともと100mを11秒64、200mは23秒台のスピードランナー。走り幅跳びの助走は18歩、ラスト7～9歩で勢いを最高にして全身を宙に向けて踏み切りジャンプします。空中フォームに悩んだこともありましたが、新しい挑戦を繰り返し、率直に指導者のアドバイスを聞き、自分なりに考えてアレンジして熱心に練習して課題を克服してきました。「持ち前の素質に加えて研究熱心で自分に合った練習方法を選択して信念を持って取り組むことができる選手」と顧問の立花泰志先生。

小学生になって間もなくジュニアクラブに参加、市陸上競技場などで練習して陸上競技に親しんできました。中学2年からほとんどの大会会場に応援に駆け付けている母親の政美さんが撮り貯めてきたビデオやDVDを観てフォームをチェックするのが楽しみ。時には大好きな和菓子も我慢して、食事・体調管理にも取り組みコントロールしているとのことです。

毎日の練習を全力できちんとやれば、結果は必ずついて来るという固い信念。身長（1m77cm）はまだまだ伸びそう。筋力を付けて体力をアップ、技術とメンタル面の強化にも取り組み、今度は高校日本一への挑戦が続きます。

提供:新潟日報社

陸上女子400mリレー

小針中チーム

勝負のバトンで全中準優勝

強さの秘密は全部員のチームワーク

“勝負のバトン”が決まった！ 矢尾優奈さん（2年）縄亜佑実さん（3年）宮路芽衣さん（2年）中沢舞さん（3年）の4選手が抜群のバトンワーク。昨年8月の千葉全中で48秒40（県中学新）のチームベストタイムを出して見事、準優勝に輝きました。

日本一を目指していただけにトップを逃し悔しかったけれど、チームワークは日本一だったと胸を張っています。普段から勉強も私生活すべて何でも話し合える仲良しで、明るく笑顔が絶えません。陸上以外にも水泳やフットサル、ピップホップダンスや、お琴を習っている選手もいます。強さの秘密はこの明るい雰囲気と強いチームワーク、そして“勝負のバトン”。

決勝ではあえて安全策を取らず、勝負を賭けたギリギリのバトン渡しを選択しました。会場の陸上競技場のトラックは、向かい風が吹くことも事前に読んで作戦を練り上げました。最後に本間謙一監督と綿密に決めたバトンのタイミングを確認し、心を一つに出陣しました。歩数は1→2走が27～28歩、2→3走が23.5歩、3→4走が17歩。これが日本一を決める大舞台で見事に決まっていく。レースでは1走が加速したままトップスピードでつなぎ、途中3走まではトップを快走。一人かわされたもののアンカーが懸命の走りでフィニッシュ。トップの千葉県チームに僅か0秒26差の準優勝でした。

ピークを全中に合わせてトレーニングし、体調もベストコンディションで臨めました。メンバーの身長は161～154cmとライバルのチームに比べ恵まれているとはいえない体格。それぞれが練習後も自主トレーニングで鍛えてきました。バトンを渡すタイミングや位置を何度も繰り返しての練習には、全部員も協力して気持ちを盛り上げてくれました。

小針中は陸上強豪校という伝統があり、今回は男子リレーでも準決勝まで勝ち進みました。全中には史上初の14人が出場し、チーム一丸となって常に自分たちのペースで元気に挑戦して、他県の監督や選手が思わず振り向くほど。チームワークと平常心で勝ち取った結果でした。

提供:新潟日報社

ジュニア強化の指導者

相　撲

大林　昌智さん

日本相撲連盟3段、公認審判員
新潟市相撲連盟ジュニア強化部
新潟市相撲教室担当

まず礼儀　同じ土俵で一緒に成長

シコふんじゃった!―まさか自分が相撲界に関わるとは思ってもいませんでした。あれから18年、今では相撲教室の頼れる指導者となりました。鳥屋野総合体育館の道場には幼稚園児から高校生まで10人ほどが毎週2回ほど夜に集まって練習しています。まず土俵に礼をして準備運動、四股、すり足、押し、申し合い、ぶつかり稽古、四股、整理運動、そして瞑想。中には100k超の中学1年生もいて、身長172㎝体重65kの大林さんは一気に土俵の外に運ばれることもしばしばです。

■全く未知の世界だった

大学を出て入社した会社の転勤で新潟に。仕事の後に「ちょっと手伝ってくれんか」と上司に言われ連れて行かれたのが相撲道場でした。「えッ!」。その上司は市相撲連盟のジュニア強化部長だったのです。

埼玉・熊谷市の出身で野球少年でした。甲子園で準優勝したこともある熊谷高校の主将を務めました。相撲は全く経験なし。当初は体操のお兄さんのような存在で、子どもたちのまわし付けや体力づくりのお手伝いから始まりました。その後は自らまわしを付け土俵に上がるようになり、小学生に交じって四股を踏み、すり足などの基本的な稽古をしました。わんぱく相撲全国大会に出る小学生に連れられて初めて両国国技館を訪れました。

30歳を過ぎて東日本実業団相撲大会に出ましたが、一撃秒殺された思いでした。連盟の先輩選手に稽古をつけてもらい技を磨き、走り込んで足腰を鍛え、相撲を始めて3年目で全国青年大会県予選で体重別3位となりました。やがて教室の運営を一切任せられるようになり、小・中学生に胸を出し一緒になって稽古の日々。また一方で審判講習会などに参加して、日本相撲連盟の公認審判員を取得。平成21年の新潟国体では競技役員の一員として、村上会場で成年決勝トーナメントなどの主審を務めました。

■姿形が奇麗に見えるよう

一緒になって稽古を積んできた子どもたちも強くなって、平成19年の県相撲大会で小学4年の教え子が優勝し、北信越大会で3位になって全国小学生相撲大会に出場。昨年は中学2年生が全国中学生相撲大会に出て、決勝トーナメントまで進みました。

指導者としてはまだまだ素人という認識だとか。子どもたちと一緒に学ぶという姿勢は変わらず、まずは礼儀をきちんと教えます。そして体力を付け、しっかりとした基本技を身に付けていきます。主審としては所作が第一、土俵上の選手の気持ちを酌み取り呼吸を合わせ、立ち合いに集中できるようにしなければなりません。姿形が観客から奇麗に見えるよう姿勢も大事にしています。

最近になって、妻の実家（刈羽小国町）の先祖が、江戸末期の大相撲で小結を張って両国梶之助と名乗っていた、などの話が持ち上がったとか。相撲と縁が無かったわけではないのかと、何となく血が騒いでいるのだそうです。

平成24年度　第48回市民総合体育祭

種目（春季）	期　日	会　場	参加人数
アーチェリー	4/15	西総合SC	39
テニス	4/15 5/ 3 5/27	市庭球場 豊栄総合体育館 白根総合公園	714
バスケットボール	4/22～5/27	市体育館北地区SC 横越総合体育館中之口体育館 他	1,872
卓　球	4/28･29 4/30	東総合SC 亀田総合体育館	1,653
インディアカ	4/29	北地区SC	88
トリムボール	5/ 6	阿賀野川河川公園	45
バウンドテニス	5/13	北地区SC	80
ボウリング	5/13	グランドボウル黒埼	22
ソフトボール	5/13･20	阿賀野川第2野球広場 A･B･C球場	156
ゲートボール	5/15	市陸上競技場	169
ターゲット・バードゴルフ	5/26･27	みどりと森の運動公園	102
海洋帆走	5/26･27	新潟西港沖～佐渡両津港	25
サイクリング	5/27	阿賀野川河川公園菅谷方面	32
バレーボール	4/22～5/27	鳥屋野総合体育館西総合SC 黒埼地区総合体育館	360
ソフトテニス	6/10	市庭球場	270
テコンドー	5/27	鳥屋野総合体育館大体育室	43
バドミントン	6/24	アスパーク亀田	239
合　計			5,909

種目（秋季）	期　日	会　場	参加人数
水　泳	8/26	西海岸公園市営プール	649
セーリング	8/26	新潟市関屋浜沖	30
ゲートボール	9/ 2	新潟市陸上競技場	146
海洋帆走	9/16･17	新潟西港沖～粟島内浦港	12
陸　上	9/17	新潟市陸上競技場	618
バスケットボール	9/9･16･23･30、 10/21･28	市体育館・横越総合体育館・ 北地区SC・中之口体育館・ 岩室体育館・白根カルチャー	1,833
テニス	9/22 10/6･14	市庭球場 豊栄総合体育館白根総合公園	756
ラグビーフットボール	9/22･23･30、 10/6･7･14	太夫浜球場A･B、 鳥屋野球技場	530
バレーボール	9/23	北地区SC・西総合SC 黒埼地区総合体育館	324
バドミントン	9/23	鳥屋野総合体育館	521
ソフトテニス	9/23	南浜運動広場A･B	240
ソフトボール	9/ 23･30 男子 10/14 女子	阿賀野川第2野球場A･B･C 南浜運動広場A･B	295
体　操	9/29	鳥屋野総合体育館 中体育室	68
レクリエーション	9/29	新潟市体育館	307
太極拳	9/30	西総合SC	330
テコンドー	10/6	鳥屋野総合体育館 武道場	43

少林寺拳法	10/ 6	鳥屋野総合体育館	105
剣　道	10/ 7	鳥屋野総合体育館	694
インディアカ	10/ 8	横越総合体育館	131
弓　道	10/ 8	鳥屋野総合体育館 弓道場	55
相　撲	10/ 8	鳥屋野総合体育館 相撲場	36
トリムボール	10/ 8	流通公園	38
ボウリング	10/ 8	グランドボウル黒埼	27
軟式野球	10/13	小針球場	80
ターゲット・バードゴルフ	10/14	西川ふれあい公園	51
合気道	10/14	鳥屋野総合体育館	110
ボクシング	10/14	陸上競技場内	96
アーチェリー	10/14	西総合SC	41
馬　術	10月 中旬	馬術競技場	26
卓　球	10/20･21	亀田総合体育館	1,009
柔　道	10/21	鳥屋野体育館武道場	91
ウエイトリフティング	10/21	新潟工業高校	19
バウンドテニス	10/21	北地区SC	42
空手道	10/21	鳥屋野総合体育館	288
スキー	3/17	魚沼市営大原スキー場	75
サッカー	9/15	みどりと森の運動公園多目的グラウンド	1,260
ホッケー	10/8	城山運動公園多目的広場	230
合　計			11,206

「努力は裏切らない」目標を高く

水　泳

木下　洋一さん

県水泳連盟国体競泳コーチ
県水泳連盟競泳強化委員

所属するスイミングクラブ（アクシーひがし）のプールサイドから、木下さんの大きな声が響きます。ストップウォッチを片手に、中学、高校生クラスの選手たちの泳ぎっぷりを目で追ってチェック。個々の能力や身体的な特長、その日の調子に合った練習メニューで鍛えます。

■教え子の成長に感激

自身が水泳を始めたのは小学校2年生からで、両親に勧められてスイミングクラブに通い、仲間と一緒に楽しく遊んでいたのを思い出します。他のスポーツと違って水泳だけはずーっと続けてきました。日本文理高校の部活で自由形を中心に本格的に取り組み、鹿児島の大学に進学し、アルバイトでスイミングクラブのコーチとなったのが転機になりました。

主にちびっ子を相手の仕事でしたが、自分の指導で子どもたちがどんどん成長していく姿に感激し、何となく指導者としての将来を意識したと振り返っています。

新潟に戻って子供のころ通った小針中央（アクシー中央）から現在のプールに配属になって今年で7年目となります。この間にスイミングクラブ協会の指導者資格を取得。指導に関わった子どもたちが選手として活躍し、泳ぎ込むたびにタイムが良くなっていくのがうれしくてしょうがないと目を細めています。

帰郷して指導者となって間もなくして出会ったのが、昨年の全中競泳女子バタフライ100m、200mの2種目を制覇した中野未夢選手（東石山3年）で、小学3年生のころからの長い2人3脚でした。中野さんの成長に刺激されると同時にコーチとしての意識も高揚し自身も成長してきたと思っています。ベストコンディションでプールサイドに立つようにしています。

■モチベーションを上げる

指導の基本はマナーと人間性、練習のポイントはまずモチベーションを上げることにしています。そして技術的な指導へ。まずはフォームを基本に、いかに抵抗の少ない泳ぎの姿勢をとることができるか、一流選手のビデオも参考にして一緒になって考えさせ、子どもの体の成長に合った指導を心がけます。

高い目標を持たせることも重要です。ロンドン五輪で200mバタフライ銅メダルの松田丈志は延岡市（宮崎県）のビニールハウス生まれのエース。昨年9月の岐阜国体200m平泳ぎで世界新を出し、北島康介の記録を4年ぶりに更新した鹿児島・志布志高3年の山口観弘は、市民プール育ちで一躍脚光を浴びました。「努力は決して裏切らない」と中野未夢さんに続いて、新潟から日本を代表する選手が育ってほしいと願っています。

平成24年度賛助会員（敬称略）

企業・団体会員

◆株式会社アルビレックス新潟
◆**株式会社池田看板**◎
◆株式会社三英
◆株式会社CSコーポレーション
◆株式会社新潟カントリー倶楽部
◆株式会社新潟東急イン
◆株式会社白新商会
◆株式会社ポッカコーポレーション新潟営業所
◆株式会社ホテルオークラ新潟
◆株式会社ヨシカワ
◆共立印刷株式会社
◆グリーン産業株式会社
◆公益財団法人新潟市開発公社
◆サイトウスポーツ株式会社
◆スポーツショップ株式会社ファイブ
◆スポーツショップペレ
◆セノー株式会社関東信越支店
◆新潟市体操協会
◆**新潟市武術太極拳連合会**★
◆新潟綜合警備保障株式会社
◆新潟ヤクルト販売株式会社
◆新津カントリークラブ
◆**長谷川体育施設株式会社北信越支店**◎
◆有限会社イトウスポーツ

◎印の方に、平成24年度の功労賞を贈呈（20年以上継続）
★印の方に、平成24年度の感謝状を贈呈（10年以上継続）

個　人　会　員

◆朝倉　悟
◆下川　信也
◆西　和男
◆山内　春夫
◆今井　英雄
◆白川　敏男
◆羽下　仁
◆溝間　俊一
◆**片桐　輝久**◎
◆友正　慧
◆速水　裕
◆渡辺　京子
◆斉藤　賢一郎
◆中島　正雄
◆細野　忠雄
◆佐藤　實
◆中屋　昭夫
◆目黒　勤
◆**新発田　貞夫**★
◆鳴海　丈支
◆山下　正臣

スポーツ振興にご協力ありがとうございます

秋晴れ体育の日<体力づくりのつどい>

「いつでも・どこでも・いつまでも」生涯スポーツを

家族連れなど1,300人が心地よい汗

市民が気軽にスポーツに親しむ、体育の日恒例の「健康・体力づくりのつどい」が10月8日、市陸上競技場で開かれ、約1,300人の家族連れなどが参加して、運動不足の解消に挑戦したり体力測定をしたりして、素晴らしい秋晴れの下で心地よい汗を流しました。

「いつでも、どこでも、いつまでも」生涯スポーツを楽しむことができる社会の実現を目指し、さまざまなスポーツインベトを毎年開催していますが、今年は新趣向も加わって10種目に増え、行列のできるイベントもありました。

初の開催となったスポーツ少年団対抗たすきリレー10kマラソンは、1周400mのトラックを25周走ってタイムを競いました。参加は5チームで全8区の対抗戦にはならなかったものの、遅れてゴールする最後のチームに全チームが声援を送るなど温かい雰囲気となりました。また、表彰式の前には全国スポ少50周年記念事業の一環として、全員で清掃活動をしました。

逆上がり教室も初めての試みで、定員を大幅オーバーの申し込みがありました。新大体操部の学生からポイントを伝授され、鉄棒をくるっと上手に回転できた子どもたちから歓声が上がっていました。

親子で、孫と一緒などと多くの家族が参加していたのは、かけっこ50mタイムトライアルや立ち幅跳び測定コーナー。普段はなかなかチャンスの無い運動に全力で挑戦して汗を流していました。

このほかアルビレックスサッカークリニックでパス回しをしたり、ターゲットバードゴルフに初挑戦したり。お楽しみ抽選会ではシティマラソンのゲスト高橋尚子さんのサインや、アルビレックス選手のグッズなどビッグなプレゼントがあって大にぎわいでした。

全国スポーツ少年団ホッケー大会西蒲区で初開催

地元「新潟CREST」女子が3位に

全国スポーツ少年団ホッケー大会が7月27～30日、ホッケーのまち・西蒲区（旧巻町）で本県で初めて開催されました。地元の声援を受けて新潟CREST女子が3位と大健闘しました。

同大会は日本スポーツ少年団創設50周年記念事業。今年は第34回大会で競技には小学4・5・6年生のチームが全国から男子26チーム、女子23チームが参加し、城山運動公園多目的広場で熱戦が繰り広げられました。

地元西蒲区が拠点の新潟CRESTは県内唯一のジュニアホッケーチームで、過去の最高成績は女子がベスト8、男子が同16位でした。今回は地元優勝を目指して練習してきましたが、女子チームは決勝トーナメント準決勝で昨年も優勝の各務原市（岐阜）に0－1と惜敗しました。また男子チームは決勝トーナメント1回戦で水堀沼宮内（岩手）に1－4で敗れ上位進出は成りませんでした。

県協会が中心になって小学校へ出前講習会などを実施、社会人となった元選手が学校で指導に当たるなど、地元の機運が盛り上がった育成体制の成果が実っています。

長岡で全国高校少林寺拳法大会

伊勢選手が念願の初V

全国高校総合体育大会（インターハイ）「北信越かがやき総体」2日目の7月29日、長岡市で行われた第29回全国高校少林寺拳法大会で、伊勢歩美選手（新潟高3年）が女子単独演武で気合の入った切れのある動きを披露して、初優勝を飾りました。

伊勢選手は昨年の香川県で行われた同大会では、わずか1点差の悔しい2位でしたが、今年は見事な演武で高校日本一の夢を実現しました。

新潟商が団体・個人で3位に

剣道女子 インターハイで大健闘

新潟市で開催されたイターハイ第13日の8月9日、東総合スポーツセンターで行われた剣道女子団体で、新潟商チームが県勢過去最高の3位に輝きました。また個人戦でも大将としてチームを支えた武田真弥選手（3年）が3位と健闘しました。

団体戦決勝トーナメントで新潟商は、1回戦を和歌山東（和歌山）に3－1と快勝。準々決勝では強豪の島原（長崎）と大将戦まで5人が全て引き分け、代表戦で大将の武田選手が、九州地区女王という相手大将を見事な胴の一本勝ちで下しました。

準決勝の相手は守谷（茨城）、先鋒で敗れそのまま劣勢を回復できないまま1本も取れずに0－3と完敗して涙を飲み「地元で日本一」という目標に届きませんでした。守谷は決勝戦では代表勝ちで中村学園女（福岡）に辛勝して優勝しています。

個人戦では武田選手が膝の故障を抱えながらの大健闘で、個人戦の3位は県勢14年ぶりの快挙となりました。

全国定時制高バドミントン大会

池島選手（新潟翠江）が3位に

日本バドミントン協会主催の第14回全国高校定時制通信制大会が8月16～18日、神奈川・小田原アリーナで行われ、本県代表チームは女子団体は1回戦で敗退して上位進出は成りませんでしたが、女子シングルスに出場した池島花織選手（新潟翠江高）が見事3位と大健闘しました。

全国から団体44チーム、個人96人が参加して行われました。池島選手はトーナメント4回戦を勝ち進み、準決勝では栃木県の選手と対戦しましたが、0－2で惜しくも敗れました。その栃木の選手は決勝で山梨県の選手を破って優勝しました。

ハイスクールソフトテニス全国大会

北越高のペアが3位に

ハイスクールジャパンカップ・ソフトテニス大会（第41回ゴーセン杯争奪）が札幌市を会場に開かれ、本県代表の山本千紘選手と小林すみれ選手（北越高）のペアが3位となりました。

同大会は日本ソフトテニス連盟の主催で、各県代表のダブルス高校男女の各60組が参加して熱戦を展開しました。

山本・小林組の新潟代表ペアは山口、北海道チームとのリーグ戦を順当に勝ち進み決勝トーナメントに。1回戦で島根チームに4－0、2回戦で岡山チームに4－2、3回戦で三重チームに4－0と危なげなく勝ち進みました。そして準決勝では強豪の和歌山県のペアと対戦しましたが、0－4で敗れました。

ボクシング インターハイでライバルに惜敗

小林、生神選手ともに準優勝

小林選手(右)

生神選手(左)

新潟市体育館で8月4日開催されたインターハイのボクシングで、フライ級の小林将也選手(新潟北高3年)と、ライトウエルター級の生神拓也選手(高志高3年)がそろって準優勝しました。

小林選手は決勝で全国選抜1位の金沢宣明選手(西宮香風・兵庫)と対戦、最後は壮絶な打ち合いとなりましたが、判定は10−11のわずか1ポイント差で敗れました。両者はこれまで1勝1敗のライバル。小林選手は巧みに踏み込もうとしますが、相手は抱きついてきて逃げられ、思うように攻撃できずポイント差が開きました。最後の3回は打たれても前に出て手数を出し、相手は抱きかかえる反則行為で2度も減点されましたが、わずかに及ばず逆転は成りませんでした。

生神選手の決勝の相手は沖島輝選手(東福岡・福岡)。とにかく最後まで全力を尽くし得意の接近戦でパンチを繰り出し続けました。1回は同点でしたが2回からは巧みに逃げられ逆にパンチを浴び、結局は3−6のポイント差で敗れました。しかし最初で最後の全国大会で準優勝となり、悔いの無い試合となりました。

■世界ユース選手権で小林選手は8強に

アルメニア首都エレバンで12月5日に行われたアマチュアボクシング世界ユース選手権の日本代表(フライ級)として出場した小林将也選手(新潟北高3年)は、準々決勝でプエルトリコの選手に敗れベスト8となってメダル獲得は成りませんでした。

小林選手は初戦でドイツの選手に16−11で判定勝ち。さらに2回戦もベラルーシの選手を13−12の僅差の判定で下しました。準々決勝では相手の懐に入って機をうかがうものの、手数に圧倒されて14−26の大差で敗れました。

しかし、日本選手で8強入りしたのは2人だけで、県勢では2008年の同大会以来4年ぶりの成績でした。

■ボクシング・ぎふ清流国体 巻総合高の2選手が活躍

岐阜市岐阜産業会館で10月8日に行われた「ぎふ清流国体」に県代表として参加した巻総合高の斎藤優雅選手(少年男子ライトフライ級)が準優勝、大森翼選手(同ミドル級)が3位と活躍しました。

斎藤選手は決勝戦で地元の田中恒成選手(中京高・岐阜)と対戦しましたが惜しくもRSCで敗れました。

大森選手は初出場ながら順調に勝ち進み、準決勝では荒木悟選手(日章学園高・宮崎)に判定で惜敗しましたが、全国大会初体験で見事3位となって表彰台に上がりました。

世界ゲートボール大会、新潟で来年開催

競技人口日本一 初の国際大会に期待

ゲートボールの世界選手権大会が来年9月、新潟市で来年開催されることになりました。日本開催が決まったのは2010年の前回の上海大会でのこと。国内の数府県で開催希望がありましたが、競技人口が日本一であることなどが評価されて、最終的に本県連盟が開催地に選ばれました。

新潟市では2002年のサッカーWカップ日韓共催大会の会場となって、国際大会の開催に成功した経験も生かされます。

本県はゲートボールの競技人口が日本一で、新潟市も旧黒埼町などを中心に盛んな地域として知られています。県連盟の会員数は1万人に近く、同じく競技人口が多い長野、埼玉、鹿児島など各県と比較しても2千人ほど多いということです。

県内にはほぼ旧市町村単位で競技団体があって競技レベルも高く、初の国際大会に向け期待が高まっています。

事務局から

<ジュニア育成のポイントを学ぶ>

およそ半世紀ぶりに新潟がメーン会場となったインターハイ「2012北信越かがやき総体」。地元の熱い声援を浴び県勢の若人は大健闘でした。国体や全中でも優勝するなど有望選手の活躍が顕著でした。ジュニア育成をさらに強化するため、市体協ではオリンピックで活躍した4氏を招き指導者研修会を開催しました。パネルディスカッションで子ども時代からトップアスリートに育つまでを率直に語っていただきましたが、これらの貴重な体験と助言などを要約して冊子にまとめました。

<政令市体協の研究協議会が開かれます>

市体協が公益財団法人としてスタートして間もなく1年に。今後も皆さんの意見を聞きながら、広く市民スポーツ活動を推進してまいりますので、気軽に声を掛けてください。また、25年度には政令市体協の研究協議会が新潟市で開かれます。全国から集う関係者に心のこもったおもてなしをするとともに、十分な情報交換をして、今後の施策に役立たせたいと思います。

<栄光の記録はホームページで>

市体協のホームページ(HP)で「栄光の記録」をご覧ください。「新潟市体育協会」で検索を。市民大会やスポーツ情報・記録なども更新しています。

また、事務連絡などはEメールでの交信をお願いいたします。

www.niigatashi-taikyo.com
info@niigatashi-taikyo.com

(誌面の写真の一部は全国高校総体県実行員会事務局、新潟日報社、オールスポーツコミュニティーのご協力をいただきました)

平成24年度（第45回）新潟市スポーツ功労者表彰（敬称略）

▶泉　智慶（59）　新潟県躰道協会理事長

北区（元豊栄市）で躰道の指導を始め、県躰道協会理事長として協会の基礎づくりと運営に携わり、青少年健全育成に長年努めてきました。全国少年少女躰道優勝大会や全日本躰道選手権大会などに参加し、多くの優勝者を輩出。平成7年8月ヨーロッパ選手権大会に審判として参加。平成13年8月第3回世界躰道選手権大会では県を総合優勝に導きました。平成21年8月第5回世界躰道選手権大会に展開競技優勝の監督を務めるなど、長年にわたって躰道の普及・拡大に努めています。

▶北川　義一（60）　新潟市トリットボール協会代表理事

いつでも、どこでも、だれでもが楽しめる健全なスポーツとして「トリットボール」を考案しました。また、協会の基礎づくりから協会運営に、そして普及、指導に至るまで長年にわたって取り組んできました。今では新潟市、佐渡市を中心に新潟生まれのニュースポーツとして普及が進み、多くのファンが楽しんでいます。

▶高岡　美代子（65）　有明台小学校区スポーツ振興会事務局長

昭和54年に新潟市スポーツ推進委員に就任以来、有明台小学校区スポーツ振興会、学校開放運営委員会の設立準備の段階から主要メンバーとして参加。同校区スポーツ振興会事務局監事として、各スポーツ団体との連絡・調整役を担い長年にわたり会の組織づくりと各種行事の企画運営に尽力してきました。また、自らバウンドテニスの普及に努めるとともに、同校区スポーツ振興会が開催する各種大会を盛り上げ、校区住民の健全育成と地域のスポーツ振興に寄与し現在も活躍しています。

▶田村　兵一（74）　白根柔道連盟会長

新潟市白根柔道連盟の理事、副会長を歴任して、同連盟の基礎づくりおよび運営に貢献してきました。長年にわたり連盟の発展に寄与し、現在も会長職に携わり柔道の普及、拡大などに努めています。

▶羽鳥　冨美（81）　新潟市弓道連盟副会長

新潟市弓道連盟の理事、副会長を歴任し連盟の発展に寄与しました。また、西総合スポーツセンターの弓道教室の主任講師を長く務め、弓道の普及振興と弓道人口の拡大に多大な貢献をしました。さらに近年行っている連盟研修会の講師として、女性の襷（たすき）掛けの指導に取り組み女性弓士の技量向上に努めています。県弓道連盟の理事も長年務め、審査部長や指導部長も歴任し県弓道界の発展にも寄与しています。

▶山本　昌夫（77）　新潟市バウンドテニス協会会長

新潟市バウンドテニス協会の理事、会長を歴任し、協会の普及および運営に携わり、長年にわたって協会の発展とバウンドテニスの普及に寄与してきました。また、新潟市東区のスポーツ普及にも積極的に取り組み、住民の健康づくりや健康維持に努めています。

▶内山　正之（60）　新潟市テニス協会副会長

昭和55年より新潟市テニス協会理事を務め、平成8年に広報部長に就任。平成10年に協会の3部制を廃止し5委員制へと組織の充実を図り、引き続き広報委員長となって広報誌「新潟市テニス協会だより」の発行に携わりました。平成22年に副会長に就任後も広報委員長を兼務し、だより発行は62号を数えました。平成24年より副会長専任となり、協会の発展とテニス人口の拡大に尽力しています。

▶佐藤　一（71）　新潟市スポーツ推進委員連盟理事
新潟市スポーツ推進委員連盟北区協議会会長

長年にわたりスポーツ推進委員として、スポーツの振興・発展に尽力してきました。また、平成22年からは新潟市スポーツ推進委員連盟理事の要職を務め,また北区協議会会長として、北区におけるスポーツの振興に大きく貢献しています。

▶髙橋　謙司（82）　NPO法人新潟市ゲートボール協会顧問

亀田ゲートボールクラブ（現江南区ゲートボール協議会）の会長、顧問、県ゲートボール連盟理事、NPO法人新潟市ゲートボール協会の副会長、顧問を歴任し地域や市、県の各会の運営に携わり、長年にわたって各会の発展に寄与してきました。また、積極的に教室を開催して初心者の育成に意欲的に取り組むとともに、会員の技術向上に尽力し、ゲートボールの普及・拡大に努めています。

▶波多　修榮智（61）　新潟市柔道連盟顧問

新潟市柔道連盟の理事、理事長の職を歴任し、長年にわたり事務局兼務の重責を担って連盟の発展に寄与してきました。また、市北部柔道クラブに所属して意欲的に少年団の指導を手掛け、選手強化に力を注ぐ一方、クラブの育成と一般の指導にも惜しみなく協力し柔道の普及・拡大に貢献してきました。現在は、北部柔道クラブの副会長も務めています。

▶松尾　正行（65）　新潟市卓球連盟副会長

昭和64年より白根市卓球連盟事務局長・理事長・副会長、また南区体育協会副会長・会長を歴任し、新潟市との合併後は市卓球連盟の副会長を務めてきました。市での開催大会（全国障害者スポーツ大会トキめき新潟大会・全日本大学選抜大会・日韓大学友好大会等）の競技役員として大会運営および審判員などとして貢献しました。現在は意欲的にジュニアの育成、中学生の卓球指導に力を注いでいます。

▶横山　山人（55）　新潟市北区体育協会理事

平成11年に豊栄市スポーツ少年団本部長に就任し、現在まで青少年のスポーツ活動の普及と健全育成に尽力してきました。また、新潟市北区体育協会の理事も兼ねており、北区におけるスポーツ振興に大きく貢献しています。

平成24年度県体育協会スポーツ功労者（敬称略）

▶加藤　美明（77）

平成13年4月より新潟市体育協会の理事としてジュニア強化事業の拡大に努めるなど、組織の充実発展・育成強化事業には現在も力を注ぎ、市民スポーツの普及・振興に多大なる貢献をしています。

また、本協会加盟団体の市レスリング協会に所属してから50年以上にわたり組織の充実、発展に尽力してきました。特に、市レスリング協会の事務局長、理事長、副会長、会長を歴任し協会の運営発展に寄与するかたわら、新潟東工業高、新潟西高、東京学館新潟高にレスリング部を創設し、指導者として多くの優秀選手を育成するなどレスリングの発展に寄与しています。

第3回スポーツグランプリ 2人を表彰

新潟市体育協会は1月10日の理事会で、第3回（平成24年度）スポーツグランプリ表彰の受賞者に、第67回国体（ぎふ清流国体）の少年女子共通800mで優勝した広田有紀選手（新潟高2年）と、全国中学校体育大会（全中・栃木県）で競泳女子200mと100mバタフライで2冠を達成した中野未夢選手（東石山中3年）の2人に正式決定しました。スポーツグランプリは、アマチュアスポーツ界で顕著な活躍をして話題を提供した市内の選手または団体を毎年度表彰しています。また特別賞は、北京に続きロンドンオリンピックにも連続出場して400mハードルで準決勝進出の活躍をした久保倉里美選手に贈られました。

ぎふ清流国体・陸上 少年女子共通800m優勝

広田（ゆうき） 有紀さん（新潟高2年）

終始トップを走りそのままガッツポーズでゴール。ぎふ清流国体（10月6日）少年女子共通800m決勝で、2位に1秒以上の差をつけての快走でした。タイムは2分5秒91。県新・県高校新の快挙で高校日本一に。

8月の地元でのインターハイも激走して3位に食い込み、10月の日本ユース選手権も2分6秒96の大会新記録で優勝するなど、昨年は実り多い年でした。高校最後の今年の目標は、大分でのインターハイで高校記録2分4秒00を13年ぶりで破ること。自己ベストをあと2秒縮める夢の舞台に向けて既に準備を始めています。

高校日本一のタイムに挑戦 陸連も期待 リオ五輪の有望株に

白山小5年の時に校内マラソンで初めて陸上競技に親しみ、白新中の陸上部に入って以来800mに本格的に挑戦してきました。中3の時に全中で準決勝敗退。高校1年のインターハイでも準決勝で敗れ、この時の悔しさが頑張りの原動力となっています。

高校に進学して間もなく「引き続き800がやりたい」という広田選手を迎えて、顧問の和田紀明先生はこれまでと違う練習方法を提案。既に中学時代の走りを見て将来性を確信していました。他の選手より前に足を着きスムースに体の重心を載せて前進。足長で腰の位置も高く広いストライドの素早い動きに注目していました。短距離走の練習本数を増やしてハードルジャンプにも挑戦、400mのスピードを維持しながら800mを走り切れる走力を付けて記録を伸ばしてきました。過度な筋力トレーニングは避け練習メニューを工夫して体幹を鍛えました。

体力的にも精神的にも一番つらいけれど、練習すればするほどいい結果がついてくる800mにこだわって、週5日の夕方4時15分から2時間、市陸上競技場で走り込む毎日。気持ちをメリハリ良く切り替えて学業と部活を両立させています。将来は両親と同じ眼科医になること、そして大学に進学しても陸上競技を続けて国際舞台で活躍したいという夢。日本陸連からジュニア強化選手にも指定され、2016年リオ五輪の有望株として期待されています。

全中・競泳バタフライ 100m・200mで2冠

中野（みゆ） 未夢さん（東石山中3年）

昨年8月、栃木県立温水プール館での全中競泳女子バタフライ決勝。まず200mで自己記録を更新する2分11秒19で初優勝しました。100mの折り返しでは先頭と0秒13差の2位、後半は持ち前のキック力を発揮し逆転、最後は2位に1秒以上の差をつけての圧勝でした。翌日の100mでも後半一気の勝負。50mを3位でターンしましたがラスト25mから鮮やかな逆転劇で自己ベスト1分1秒15で優勝しました。県勢の優勝は18年ぶり。2種目制覇は49年ぶりという快挙をなしとげました。

昨シーズンは泳ぐたびに記録を縮めてきました。全中のほか全国JOCジュニア五輪夏季大会でも2冠。9月の国体では岐阜メモリアルセンターのプールで少年女子B（高校生含む）100m3位となってタイムは1分00秒64。200mでは2分11秒03を記録して、ともに中学生ランキング1位となりました。

県勢で49年ぶりの快挙 後半で爆発するキック力を磨く

プールの初体験は保育園の時でした。楽しい思い出をずっと持ち続けて水泳に打ち込むことができました。本格的な練習は小学3年頃からで、木下洋一コーチ（県水泳連盟・アクシーひがし）とはそれ以来のコンビ。週6日を1時間半、約5,000mを泳いで多彩なメニューをこなす毎日です。「常に全力でね」と激励して見守ってくれる両親の応援も大きな励みになっています。タイムが伸びない苦しい時期もありましたが全中を前にした昨春のジュニア五輪で2位になったことが励みになって練習にいっそうの熱が入りました。

決して恵まれた体格ではない（身長155cm）のに、きついバタフライに挑戦してきました。「とにかくキックが楽しいんです」。木下コーチによると足腰が強くキック力がずば抜けている。さらに膝が後ろに弓なりに反るという身体的な特長もあって、これが水をしっかりと捉えるカギになっているといいます。

より美しいフォームをしっかりつくること、呼吸のタイミングのリズムを整えることなどと、課題をしっかりと練習に取り組んでいます。目標は高くリオ五輪を見据えています。

特別賞

特別賞は久保倉里美選手に ロンドン五輪に新潟市から唯一の出場選手として活躍

新潟アルビレックスランニングクラブ所属。陸上女子400mハードルで55秒34の日本記録保持者。新潟市の在住で唯一ロンドンオリンピック出場を果たし、前回の北京オリンピック同様に準決勝進出の好成績を収めました。第96回日本陸上選手権大会で優勝し6連覇の偉業を成し遂げました。昨年（第2回）のスポーツグランプリ受賞に続いての表彰です。